

## 平成27年度「研究大学強化促進事業」フォローアップ 進捗状況概要 奈良先端科学技術大学院大学

### 目 的

奈良先端大の使命・目標の達成のための根幹は世界をリードする研究活動であり、研究力の更なる向上のために以下の点を特長とする研究力強化事業を推進する。

- ・若手研究者の積極的な登用と学際・融合領域研究への組織的な取組により新たな研究領域を開拓する。
- ・研究活性の維持と研究の質の一層の底上げを図り、日本を代表する新たなトップ研究チームを育成する。
- ・国際的な頭脳循環を推進し、教員の自主的な研究力の向上、知の国際ネットワークの形成を支援する。
- ・海外に本学の研究拠点を整備するとともに、本学に海外連携機関の国際共同研究室を整備し、国際的ビジビリティを高める。
- ・加速度的に進化している先端機器の活用や高度化した実験材料の作製・維持技術等、若手研究者・研究支援者の研究力向上を図る。
- ・URAによるIR機能と研究支援機能の強化により研究システムを改革する。
- ・学長のリーダーシップの下、全学が一体となった研究力強化体制を構築する。

### これまでの実績・進捗状況

- ・先駆的研究分野を創出するために、意欲的な2名の若手研究者（物質創成、情報科学、それぞれ1名）をテニュアトラック准教授として採用した。
- ・新たなトップ研究チームを育成するために、優れた研究成果を挙げつつある6つの研究チームを選考し、研究スタッフの重点配置を行った。
- ・国際的な頭脳循環を推進するため、若手研究者の長期海外派遣（実績10名）とシニア教員の短期海外派遣（実績7名）を行った。
- ・海外に本学の研究拠点（サテライト研究室）を1室（フランス・国立科学研究センター）設置するとともに、本学内に国際共同研究室を1室（米国・カーネギーメロン大学）設置した。平成27年度中に、それぞれ更に1室を設置する予定。
- ・若手教員、博士研究員、技術職員等の研究力強化のために、講習会への派遣等、先端研究手法の修得支援を行った（実績 37件、113名）。
- ・URAによるIR機能を強化し、本学の研究力の分析と研究動向や政策動向の調査・分析に基づいた研究力強化に係る企画・立案を行った。
- ・学長のリーダーシップの下、全研究科の責任者が参加する研究戦略機構（平成27年度に研究推進機構に名称変更）を設置し、全学が一体となった事業推進体制を構築した。

### 今後の課題と展望

- ・将来を見据えた若手研究者の積極的な登用、日本を代表する研究チームの育成、国際的な頭脳循環の推進、若手教員の研究力育成という、本事業における研究力強化の戦略を引き続き推進するとともに、それらの研究力の客観的指標に対するインパクトを検証し、研究力強化プログラムの一層の強化にフィードバックする。
- ・ガバナンス機能をさらに強化し、学長のリーダーシップの下、戦略企画本部において最新の研究動向調査・分析に基づいた本学の研究活動の検証を行うとともに、科学技術の発展と社会からの要請に応じて研究力を強化していくために、さらなる戦略的な学内資源配分を行う。
- ・研究マネジメント機能の向上のために、本学に適した URA等の高度専門職員のキャリアパスや職種の整備を行うとともに、マネジメント能力を有し、教育や学術研究に理解のある人材を育成確保し、戦略企画本部に配置して大学の経営力を強化する。
- ・情報・バイオ・物質創成分野とその融合領域において世界トップクラスの研究活動を展開し、各研究領域の深化と新たな研究領域の開拓により、知の創造に貢献し、本事業で目標とした国際誌等への年間発表400報、その内、Top10%論文15%、国際共著論文30%の達成を目指す。

### フォローアップ結果

評点区分：おおむね順調に進んでいる

#### 全体を通じた所見

- 先駆的研究分野を創出するための組織的な取組や教員の自主的な研究力の向上に向けた支援など、持続力ある体制作りが着実に進められており、おおむね順調に進んでいることが確認された。今後、更に目標の具体化を図り、取組を推進することが期待される。

#### 特に優れた点

- 大学の研究拠点（サテライト研究室）をフランス・国立科学研究センターに設置するとともに、大学内に米国・カーネギーメロン大学との国際共同研究室を設置するなど、国際化に向けた意欲的な取組が見られる。

#### 期待する点

- URA の人事システムとキャリアパスの制度設計など、早期の対応が望まれる。
- 各種の取組に対する目標の具体化を図り、進捗状況の把握・マネジメントを行う体制の充実を図ることが期待される。